

I 窓口負担2割化  
10月実施を決定  
将来3割に

現在、75歳以上の高齢者医療費窓口負担は原則1割で、年収383万円以上（単身世帯）の人は3割負担（約130万人、約7%）です。政府はこうした仕組みを変更し、「単身世帯で年収200万円以上、夫婦とも75歳以上の世帯で年収320万円以上」を対象に、窓口負担を1割から2割に引き上げようとしています。75歳以上となる1815万人のうち約370万人、法律では、2022年10月から2割負担に引き上げる方針です。高齢者の保険料負担については、恒久制度による保険料軽減措置に加えて、予算措置による保険料軽減特例が実施されてきましたが、それでも10%を超える保険料負担率（20~21年度は11・41%）となっています。その保険料の軽減特例も廃止されました。今の制度は、高齢者を標的として医療費抑制をねら

# 岸田さん この声 聞いてよ

75歳以上  
医療費窓口負担  
**2倍化は  
中止！**

い、「健康の自己責任」と「受益者負担」を制度の根幹に据えています。こうした制度の欠陥は放置したまま、窓口負担を2割化することを認めることはできません。経団連は、「原則2割を基本」とするようくり返し主張しています。

**武市 和彦** 日本高齢期運動連絡会  
前事務局長

2 「岸田さん  
この声聞いてよ」  
アンケートの目的

実施の中止を求めて運動をすすめています。

3 アンケートの  
回収数など

回収数：1665件	回収地域：全国18県	対象者：65歳以上の高齢者
-----------	------------	---------------

制が起こり、必要な医療を受けられない事態になると考えられます。今回のアンケートでは、岸田首相へ直接高齢者の声を届けるとともに、高齢者が日常生活の中で経験したことについて答えてもらいました。

コロナ禍によってここ数年、高齢者の生活実態は大変厳しくなっています。また、年金引き下げ、この間の物価高に加え、保険料の値上げ、今後予定されている電気料金値上げなど、この状況の中で75歳以上の医療費窓口負担2割化が実施されれば、受診抑制が起こり、必要な医療を受けられない事態になると考えられます。今回のアンケートでは、岸田首相へ直接高齢者の声を届けるとともに、高齢者が日常生活の中で経験したことについて答えてもらいました。

4 アンケート結果の  
まとめ  
保険料・税の支払い  
「滞つた」が7・3%

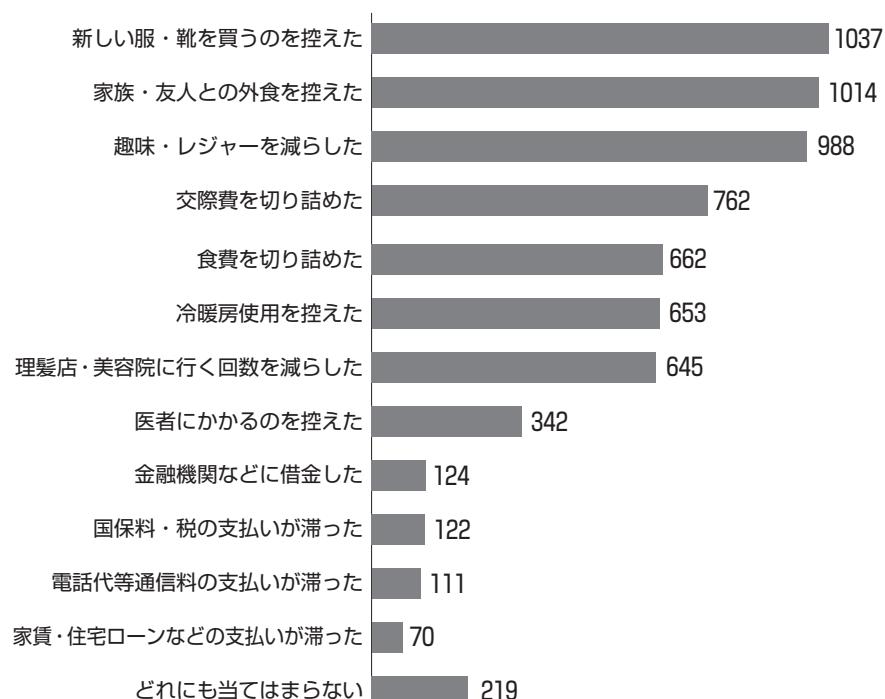
グラフをご覧ください。「この一年間のあなたの暮らしで経験されたことは」の問い合わせの「原則3割」へと段階的に負担増を進めていく突破口にされる恐れがあります。わたしたちは、高齢者のいのち、人権を守るために、2倍化10月を

## 75歳以上医療費窓口負担2倍化は中止！

### グラフ 「岸田さんこの声聞いてよ」アンケート結果より

高齢者の厳しい生活実態 削れる支出は削った もうこれ以上は限界  
6割の方が社会とのつながり（外食・趣味レジャー）、衣服・靴等の経費を削減。  
2割の方が医者にかかるのを控えたと回答

この一年間のあなたの暮らしで経験されたことは（複数回答）回答数1665件



趣味・レジャーを減らした（59%）、④交際費を切り詰めた（46%）、⑤食費を切り詰めた（40%）と続きます。切り詰めてもどうにか生活できる項目もありますが、高齢者にとって大切な社会とのつながりに必要な経費を削っている

方もあります。「美容院にはもう何年も行っていない。自分でカットしている」との答えも。また、電気代節約のために「冷暖房の使用を控えた」との答えも39%にのぼりました。「医者にかかるのを控えた」の答え

も20%を占めました。コロナ禍の中で受診控えもすんでいることが浮き彫りになりました。

化になると、「これ以上何を切り詰めるのか」と将来の生活への不安が多く寄せられました。

深刻なのは、「国保料・税の支払いや電話・通信費の支払いが滞った」が7・3%、「金融機関に借金した」が7・4%、「家賃・住宅ローンの支払いが滞った」が4・2%

%と、現在の収入だけでは生活を維持することが困難な方が一定数いることです。

高齢者の生活が、憲法で保障されている「健康で文化的な最低限度の生活」からほど遠い状況におかれていることが見えてきます。

### 5 生活実態に関する声 自由記載欄から

アンケートの自由記載欄に寄せられた声を見ると、耐久消費財の支出をぎりぎりまで切りつめて生活している方が多くいます。家電製品が故障したり、補聴器が必要になつても、購入できない状況の方が多いです。こうした中で75歳医療費の窓口負担が2割

に、文化的行事に参加はゼロ。これまで人間の生活といえますか。息をして寝ているだけです。

- ・趣味やレジャーはコロナで減っています。理髪店は安い店でしています。
- ・身内（姉77才・兄79才）が自殺。安心・安全の老後が送れなかつたのが原因です。通信料が高額になるのを防ぐためにスマホは一番安い所に変更。メガネを新調したかった

すでに切りつめた生活、その上に物価高が：  
・寒い日は厚いセーターを着る。塩分控えて自家の食事。  
・ボランティアの関係で友人宅を訪問することが必要なのに、控えることが多くなりました。特に車で行かなければならぬ遠方の方とは疎遠になりました。

が我慢しています。

・食費は常に、少しでも安く買える店を利用しています。

・美容院を経営。高齢者の来店回数減少により売り上げが減少し、出費を控えるようになります。値上がりが追い打ちをかけます。

・コロナ禍で外出の機会が減り、支出が減った分、何とか年金で暮らしています。交流が少なくなった分、「お久しぶり」の言葉が多くなり、懐かしいという気持ちがわいてきます。皆様との交流が私の生きる支えなのかもしれないなど考えています。

・毎月の年金額内でマイナス

の生活にならないようにして

います。マイナスになると借

金になるので何にも手が出ず

に「悩む」生活です。

・いつも現金不足で困っています。年金を1カ月ごとに支

給してもらわないと、支給日

前には本当に困っています。

切りつめて生活しています。

・コロナの流行で公共交通機関の利用を控え、タクシーの利用が増えた料金がかさむので病院を変えました。

・岸田さん、高齢者の多くが国民年金の収入だけで生活しています。想像力を働かせて、1ヵ月6万5000円で、住居・食費・医療・光熱・教養（テレビ・新聞・通信）だけの項目で予算を作つてみてください。お隣の93歳独居の女性は、転倒して怪我をしても通院できません。皮下出血もあるのに…。

・一番切りつめたのは食費です。食事の楽しみは全然ありません。夏は暑く、冬は寒く光熱費が大変。冬は着込めるので夏よりはいいです。

・年金生活で、自分の病院・薬代や主人の介護もあるので、窓口負担が倍になると生活ができなくなります。物価も高くなっているので生活が苦しい。高齢者にとって医療費は不可欠です。安心して老後生活を送つていけるようお願いします。

・毎月の医療費が高くて苦し

い。薬代も高いけれど、飲まない数値が上がるので仕方なく飲んでいます。年金が少ないのに介護保険料が高い。

ガソリン代もすごく高い。

・アンケートでチェックを入れた項目は「控えた」のではなく、そうせざるを得ない状況でした。出歩く機会が減ると消費も減ります。楽しみが減る→元気が出ない→フレイルにつながっていきます。

・新しい服や靴を買うのは、年金生活になつた時にすでにあきらめ、本も購入していません。「退職して悠々自適に暮らす」という言葉は、一般庶民には死語になつてしましました。この先健康に暮らしていくよう、年金引き下げをやめてほしいし、体調が悪化する前に安心して病院に行けるよう、75歳以上の医療費2倍化はやめてほしい。

・夫を介護しています。昨年6月よりオムツの支給がなくなりました。同居の息子がいるからと。世帯分離をして5年余、支給されていたのに、なぜか。国はいかにして老人に係る出費を削ろうかと考えているのか。介護保険料は何に使われているのか、不信感でいっぱい。福祉にもっと予算を使ってほしい。

・親は幸い、医者にかかるのは眼科と内科の定期受診です。91歳。これまで3回骨折で入院しているので大変不安です。支え手の1人である長男

した。補聴器は高すぎて買えません。年金は下がる、物や税金、介護保険料は上がっています。大変です。

## 高齢者いじめはやめて!

・歯科・眼科を含め5ヵ所の病院通りで、昨年は1年間で7万円の出費でした。いずれ白内障の手術が必要になると言われています。負担が2倍になつたら大変な出費。歯も直すところが出てくると言わされました。

・夫を介護しています。昨年6月よりオムツの支給がなくなりました。同居の息子がいるからと。世帯分離をして5年余、支給されていたのに、なぜか。国はいかにして老人に係る出費を削ろうかと考えているのか。介護保険料は何に使われているのか、不信感でいっぱい。福祉にもっと予算を使ってほしい。

・親は幸い、医者にかかるのは眼科と内科の定期受診です。91歳。これまで3回骨折で入院しているので大変不安です。支え手の1人である長男

耐久消費財の買い替えが大変

・高齢者（夫78歳、妻71歳）の2人で年金収入のみで生活しています。1円でも安い値段のものを工夫して食べています。一番困るのは、電化製品の耐久年数が過ぎて故障した時、購入ができるないこと。孫たちへのお小遣いを減らす方向で考えています。

・年がいつて耳が遠くなりま

した。補聴器は高すぎて買えません。年金は下がる、物や税金、介護保険料は上がっています。大変です。

## 75歳以上医療費窓口負担2倍化は中止！

の私も年金暮らしだす。  
・医療費2倍化、年金削減もあり、長年親しんだパソコンをついにやめました。車もやめ、パソコンもやめると孤立が深まる恐れがあります。助けてほしい。

・70歳になり、医療費が1割負担になつてずいぶん楽になつたなと思つたら、75歳から2割とは、ひどすぎます。お金の心配なく医療機関を受診できるようにしてほしい。

・医療費が夫婦2人とも必要です。私が内科と眼科と整形外科、夫が脳外科と眼科と内科。1カ月おきだつたり3カ月おきだつたり。「これ（＝窓口負担）、75歳になつたら今のは半分やな」と話していたのに、医療費、何とかしてくれさい！介護サービスのことも不安でいっぱいです！  
・先日、歯科で前歯を15年ぶりに治療しました。2回の通院で1万2260円。これが2倍だと2万4520円。とても払える気がしません。年金は下げているのに、どうして2倍化するのですか？健

康を守るため努力をしているのに、これ以上高齢者いじめはやめてください。

### 将来が不安です

・電気・ガスなどの値上げ、食料品・雑貨・日用品等、生活用品のほとんどが値上げになるようで不安。これから年齢と共に病気や怪我等が心配だし、年金額が実質下がつてるので大いに不安です。

・現在82歳。18歳から大企業に入社して、結婚しても退職せず、厚生年金満額、企業年金あり。夫は要支援1。今は何とか生活でできているけれど、今後が不安。

・「高いなあ」と思いながら健康保険料・税を払つていまます。毎月お医者さんのお世話になつています。持病とは死ぬまでつきあわなくてはいけません。毎月、「どうしよう」と思いながら通つています。

トで明らかになりました。厚生労働大臣が昨年の国会で、「高齢者にはまだ生活に余裕がある」かのような答弁をし、75歳医療費窓口負担2割化を強行しました。

実際にはさまざまな節約をしながら生きている方が多くあります。とても余裕など感じられない方が多く、国会での厚生労働大臣の答弁の内容とは大きく違っています。

フレイル予防の大きな要因である「社会とのつながり」が、コロナ禍の中で経済的な理由で断絶しています。これは、高齢者の健康維持の観点からも見過ごすことはできません。

わたしたちは、75歳以上を対象とした高齢者生活実態調査を実施し、現在、分析を進めています。5月末までは一次調査をまとめ、結果を公表する予定です。

2割の方が医療機関への受診を控えたと回答しています。このうえ、75歳医療費窓口負担2割化が実施されると、高齢者の受診抑制が起こることが大いに懸念されます。

誰でも病気にかかる可能性があり、医療には負担（支払）能力と関係なく必要性が生じます。自己責任や助け合いで解決できる問題ではありません。所得の多寡に関わら

ず、すべての国民が平等に医療サービスを受けられるようになることが、社会保障の本來のあり方です。

### このたたかいは、高齢者の

人権、いのちを守るたたかいでもあります。高齢者への給付が多過ぎるかのように描き、世代間対立をあおつて負担を肩代わりさせあうのではなく、「負担（支払い）能力に応じた負担」は、医療費窓口負担ではなく、税と社会保険料に求めるべきです。

わたしたちは、75歳以上を対象とした高齢者生活実態調査を実施し、現在、分析を進めています。5月末までは一次調査をまとめ、結果を公表する予定です。

岸田内閣は、10月の75歳医療費窓口負担2割化実施を中止にすべきです。補正予算の編成で10月実施は延期・中止できます。わたしたちは、参議院選挙に勝利し、あきらめずに最後まで引き続き運動をすすめます。

### 6 アンケートのまとめと今後の運動提起

コロナ禍の中での高齢者の厳しい生活実態が、アンケー

## “転倒して怪我をしても病院に行けない”

### “窓口負担が倍になると生活できない”

トで明らかになりました。厚生労働大臣が昨年の国会で、「高齢者にはまだ生活に余裕がある」かのような答弁をし、75歳医療費窓口負担2割化を強行しました。

実際にはさまざまな節約をしながら生きている方が多くあります。とても余裕など感じられない方が多く、国会での厚生労働大臣の答弁の内容とは大きく違っています。

フレイル予防の大きな要因である「社会とのつながり」が、コロナ禍の中で経済的な理由で断絶しています。これは、高齢者の健康維持の観点からも見過ごすことはできません。

わたしたちは、75歳以上を対象とした高齢者生活実態調査を実施し、現在、分析を進めています。5月末までは一次調査をまとめ、結果を公表する予定です。

岸田内閣は、10月の75歳医療費窓口負担2割化実施を中止にすべきです。補正予算の編成で10月実施は延期・中止できます。わたしたちは、参議院選挙に勝利し、あきらめずに最後まで引き続き運動をすすめます。

## 社会保障